

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	：十分達成できている
B	：おおむね達成できている
C	：やや不十分である
D	：不十分である

学校名	白石町立北明小学校
1 前年度 評価結果の概要	・学力向上についてはマイプランを共有し、重点指導内容を共通認識して実践した。また、毎週2回、朝の時間に「国語チャレンジ」「算数チャレンジ」を、年に2回「漢字フェスタ」「計算フェスタ」の取組を実践したことにより、基礎的・基本的な学力の定着が図られ、学習状況調査において良い結果が出た。授業力の向上と学習内容の定着を意識した取組の成果だと捉える。保護者アンケートにおいても、本校の教育活動について全項目で「概ね達成」以上の評価であり、学校関係者評価においても、高い評価を受けた。 ・本校児童の課題である表現力の向上、主体的な活動についても教師が課題を共有し、解決の方策を考え取り組んだ。今年度より、特別活動の領域において校内研究として取り組み、表現力の向上や話し合い活動の充実など児童が活躍できる場作り、活動内容の検討などを進めていった。今後はさらに児童の自己肯定感を高めるための方策を探っていく。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進については、見通しを持って業務に取り組むことができるよう意識付けをしていくことで、職員が効率的に業務を推進していくことができた。また、行事等を見直す検討会を2回開き、業務の精選をしていったことも勤務時間の削減につながった。 ・個に応じた教育、特別支援教育には保護者、学校関係者評価においても高い評価を得ている。児童に寄り添い、全職員で見取り、情報共有することにより今後も、個に応じた支援・指導を充実させていきたい。 ・コミュニティスクール・地域学校一体型教育におけるこれまでの取組は、今年度も充実しており、先進校として他県からの視察も来た。今後も、地域と連携し、保護者とともに教育活動を行っていくためにも、社会に開かれた教育課程を実践し、保護者や地域との情報共有、学校の取組の発信などを進めていく必要がある。

2 学校教育目標	自分・学校・家族・地域の幸せを願い、志を持ち学び続ける北明っ子の育成 ～ひとみ・こころ・いのち かがやく北明っ子～ ◇ かしこく（知）：確かな学力・知恵を磨く ◇ やさしく（徳）：しなやかに人と関わる力を培う ◇ たくましく（体）：健康で元気な心身を育む
----------	--

3 本年度の重点目標	○ 自己決定と行動、試行錯誤を積み重ねて成長に向かう児童の育成 ○ 他者をいつも視界において、学び合い、支え合う協働性の涵養 ○ 教育活動の質的向上と働き方改革推進のバランスを取りながら研鑽に励む、チーム力の向上
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目					
重点取組			具体的取組	最終評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○「授業中は自分の考えをもち、友達に伝えることができた。」と回答した児童90%以上	・校内研(特活)を中心に、自治能力を高めるために、全教科半分以上の教科において「話し合う活動」を設定する。	A	・「基礎基本の確実な定着を目指し、確かな学力の向上や充実を意識した教科指導ができた。」と回答した教師が100%で、しっかりと意識して取り組むことができた。 ・「授業中は自分の考えをもち、友達に伝えることができた。」と回答した児童は93%と減少したが、よくできたと回答した児童が54%と増加した。
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○心の教育に係るアンケートにおいて肯定的な回答をした児童80%以上	・人権集会(人権講演会)を実施し、人権意識を高める。 ・心の教育に係るアンケートを実施し、意欲を高める。	A	・「思いやり的心をもち、みんなと協力することができた。」と97%の児童が回答した。また、人権週間に各クラスで、人権学習や人権標語作りに取り組んだことで、子どもたちの人権に対する意識を高めることができた。
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)」について組織的対応ができていた」と回答した教員85%以上	・毎月心のアンケートや教育相談週間の実施、Q-Uにより児童の実態把握に努め、情報共有と早期対応を図る。 ・いじめの対応についての研修・会議を長期休業中および随時行う。	A	・「いじめ防止に向けて 組織として対応することができた」と回答した職員は前期と同様100%だった。年に2回実施している教育相談週間や毎月の心のアンケート等を通して実態把握を行うとともに、職員間でこまめに情報共有をしながら、組織的に児童への支援を行うことができた。
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童75%以上	・様々な場面で児童の良さを称賛し、児童の良さを生かした活動に取り組ませる。 ・学習の時だけでなく、様々な活動の折には目標やめどをあてを立て、それを振り返る活動を通して、自分自身の成長を感じられるようにする。	A	・「先生はよいところを認めてくれている」について肯定的な回答をした児童は93%、「将来の夢や目標を持っている」については89%だった。 ・たすきカード等の活用により、各行事において児童が互いの良さを認め合うことができた。また、ステップアップシート等の活用により、振り返る活動に取り組む自身の成長を感じることができた。
●健康・体づくり	○「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○「かがやく北明っ子アンケート」の「給食は残さず食べ、健康に良い食事をしている」と回答した児童90%以上	・養護教諭による指導を行い、生活習慣を整えることへの意識を高める。 ・教師や栄養教諭による食育を行い、食に関する意識を高める。	A	・「早寝、早起き、朝ごはんの生活ができた。」の項目で肯定的な回答をした児童は94%、「給食は、残さず食べ、健康に良い食事をしている」の項目は97%とともに前期を上回った。教師や栄養教諭による食に関する指導の賜物だと考える。
	○安全に関する資質・能力の育成	○「登下校において、自分で安全に気を付けている」と回答した児童85%以上 ○「避難訓練において、自分で考えて行動できた」と回答した児童90%以上	・登校の様子の振り返りを、毎学期1週間行わせ、自分で安全に気を付けて登校する意識を持たせる。 ・避難する際の注意事項について事前指導を行い、訓練後には自分の行動について振り返らせ、アンケートをとる。	A	・「安全に気をつけて、歩いて(自転車)で登校している」と回答した児童は85%だった。しかし、自力登校に関しては、相違を感じる部分はあり、今後、児童だけではなく、保護者にも自力登校の呼びかけを行ってほしい。 ・「避難訓練において、自分で考えて行動できた」と回答した児童は、95%だった。訓練前に事前指導を行う事で児童の意識を高めることに繋がった。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する	・勤務、メンタルヘルスの研修を実施するとともに働き方改革についての意識向上のために定時退勤日を設定し、常に声掛けを行う。 ・会議や行事等に向けて、見通しを持って業務に取り組むことができるよう進捗状況を確認する。	A	・「業務の効率化に組織的に取り組むことができた」と答えた教職員は、87%から100%に増えた。「働きやすい職場である」と、よく思うと答えた教職員は、40%から53%に増えた。7月～12月の最貴職員の月平均時間外業務時間は、各月ともに45分間を下回り、時間外在校等時間の上限を遵守することができた。行事等を精選し、見通しを持って業務に取り組む、教職員が互いに協力し合った成果である。
●特別支援教育の充実	○支援が必要な児童への適切な支援についての全職員による共通理解と実践	○年2回、職員に対して意識調査を実施し、「特別支援体制が機能している」と回答した教員90%以上	・個別の教育支援計画、指導計画を確実に作成し、前期後期で振り返りをして改善をする。 ・特別支援教育に関する研修会の実施 ・月1回の児童理解支援会を実施し、全職員で共通理解と支援にあたる。	A	・「特別な配慮を要する児童への支援が適切に行われている。」と回答をした保護者は99%、「支援体制が機能している。」と回答をした職員が93%と、目標を上回っていた。児童の様子にも成長が見られる。全職員による共通理解・支援の実践ができた。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目					
重点取組			具体的取組	最終評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果
○校内研究	①児童の自己肯定感の高まりを意識した教育活動 ②児童の自治的能力の高まりを意識した教育活動 ③自信をもって活動し、自他のよさを活かしながら、楽しい学校生活を創ろうとする児童の育成	○「自分には良いところがあると思いますか?」と回答した児童90%以上 ○「学校や学級をよりよくしようという気持ちがありますか?」と回答した児童90%以上	・自治的能力や自己肯定感に関するアンケートを作成、実施。 ・学年や学級の実態に合わせたステップアップシートの作成と、ステップアップシートを使った授業の実践。 ・特別活動の様子や、特別活動を通して身に付いた力、振り返りなどが視覚化された掲示物の工夫。	A	・「学校やクラスでは、自分の良いところを生かして活動していますか?」で、当てはまると答えた児童は96%、「クラスや学校をよくするために、もっとこうしたい!」と思うことがありますか?」は91%で、目標数値を上回る結果となった。 ・シートを活用し、課題発見から振り返りまでのサイクルを意識した学習活動と指導を行ったことで、児童の成長や学級経営における特別活動の意義を改めて感じた。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育	
5 総合評価・次年度への展望	・学力向上については、重点指導内容を共通理解して実践した。また、毎週2回、朝の時間に「国語チャレンジ」「算数チャレンジ」を、年に2回「漢字フェスタ」「計算フェスタ」の取組を実践したことにより、基礎的・基本的な学力の定着が図られ、学習状況調査において良い結果が出た。授業力の向上と学習内容の定着を意識した取組の成果だと捉える。保護者アンケートにおいても、本校の教育活動について全項目で「できた」「だいたいできた」の評価が90%以上であり、学校関係者評価においても、高い評価を受けた。 ・本校児童の課題である表現力の向上、主体的な活動について教師が課題を共有し、解決の方策を考え取り組んだ。特別活動の領域において校内研究として取り組み、表現力の向上や話し合い活動の充実など児童が活躍できる場作り、活動内容の検討などを進め実践した。今後は今年度の研究内容を生かしながら、学級経営や授業力向上について投量を高める取り組みを進めていく。 ・個に応じた教育、特別支援教育には保護者、学校関係者評価においても高い評価を得ている。児童に寄り添い、全職員で見取り、情報共有することにより、今後も個に応じた支援・指導を充実させていきたい。 ・コミュニティスクール・地域学校一体型教育における取組は、今年度も充実した活動になり、学校だよりを通じて発信することができた。今後は、地域と連携し、保護者とともに教育活動を行っていくためにも、社会に開かれた教育課程を実践し、保護者や地域との情報共有、学校の取組の発信などを進めていく必要がある。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進については、行事等を見直す会を2回開いて検討するなど、業務の精選をしていったことが勤務時間の削減につながった。また、見通しを持って業務に取り組むことができるよう意識付けをしていくことで、職員が効率的に業務を推進していくことができた。